

『社会保障って、なに?』ワークシート

年 組 番 : 名前

1. 次のクイズに答えてみましょう (DVDを見る前に記入しましょう)。

(1) 公的年金の保険料は何に使われていますか?

- 1 自分の老後のために積み立てられる
2 今の高齢者の年金になる

(2) 公的年金は老後に受け取るもので、若い時には受け取れない。

- 1 ○
2 ×

(3) 公的年金を受け取っている高齢者は健康保険の保険料を納付しなくてもいい。

- 1 ○
2 ×

2. 次の文章を読み、< >に当てはまる適切な言葉を入れましょう。

- (1) 社会保障制度の多くは< >という仕組みが使われており、その中でも< >制度と健康保険という仕組みがある。
- (2) 病気や怪我をした場合に、誰でも保険を使って安心して治療を受けることができる制度を< >という。
- (3) 健康保険に入っていると、窓口で支払う金額は< >割が一般的である。
- (4) 公的年金には、年をとった場合に受け取る< >年金、障害者になった場合に受けとる< >年金、一家の生計を支えていた人が死亡した場合に遺族に支払われる< >年金の3種類がある。

3. 次の文章のうち、適切なものには“○”、そうではないものには“×”を()の中に入れましょう。

- (1) () 健康保険とは、みんなで毎月少しずつお金を出し合って、病気になった人の治療費を払う制度である。
- (2) () 健康保険とは、国が全額税金で病気になった人の治療費を払う制度である。
- (3) () 持病があったり、高齢者になると、公的医療保険には入れないことがある。
- (4) () 年金の保険料を納めていない場合は、年金は受け取ることはできない。
- (5) () 公的年金は、働いている人が納めた保険料に税金を加えて、高齢者に給付している。
- (6) () 公的年金は、働いている人みんなで保険料を納付することで、お年寄りの生活を社会全体で支えるとともに、働いている人の負担の偏りを減らす仕組みである。
- (7) () 公的年金は20歳になったら加入するものなので、学生の間でも必ず保険料を納付しなければならない。

4. 以下の2つのテーマについて考えてみましょう。

(1)あなたは、自分自身の「老後」の経済生活をどのように送っていこうと思いますか。

(2)あなたは、今後の社会保障に関してどのようなことを政府に望みますか。どのような社会が理想ですか。

年 組 番 : 名前

1. 次のクイズに答えてみましょう (DVDを見る前に記入しましょう)。

(1) 公的年金の保険料は何に使われていますか?

- 1 自分の老後のために積み立てられる
- 2 今の高齢者の年金になる

2

(2) 公的年金は老後に受け取るもので、若い時には受け取れない。

- 1 ○
- 2 ×

2

(3) 公的年金を受け取っている高齢者は健康保険の保険料を納付しなくてもいい。

- 1 ○
- 2 ×

2

2. 次の文章を読み、< >に当てはまる適切な言葉を入れましょう。

(1) 社会保障制度の多くは< 社会保険 >という仕組みが使われており、その中でも< 公的年金 >制度と健康保険という仕組みがある。

(2) 病気や怪我をした場合に、誰でも保険を使って安心して治療を受けることができる制度を< 健康保険 >という。

(3) 健康保険に入っていると、窓口で支払う金額は< 3 >割が一般的である。

(4) 公的年金には、年をとった場合に受け取る< 老齢 >年金、障害者になった場合に受け取る< 障害 >年金、一家の生計を支えていた人が死亡した場合に遺族に支払われる< 遺族 >年金の3種類がある。

3. 次の文章のうち、適切なものには“○”、そうではないものには“×”を()の中に入れましょう。

(1) (○) 健康保険とは、みんなで毎月少しずつお金を出し合って、病気になった人の治療費を払う制度である。

(2) (×) 健康保険とは、国が全額税金で病気になった人の治療費を払う制度である。

(3) (×) 持病があったり、高齢者になると、公的医療保険には入れないことがある。

(4) (○) 年金の保険料を納めていない場合は、年金は受け取ることはできない。

(5) (○) 公的年金は、働いている人が納めた保険料に税金を加えて、高齢者に給付している。

(6) (○) 公的年金は、働いている人みんなで保険料を納付することで、お年寄りの生活を社会全体で支えるとともに、働いている人の負担の偏りを減らす仕組みである。

(7) (×) 公的年金は20歳になったら加入するものなので、学生の間でも必ず保険料を納付しなければならない。

4. 以下の2つのテーマについて考えてみましょう。

(1)あなたは、自分自身の「老後」の経済生活をどのように送っていこうと思いますか。

自由に意見を書いてもらう(クラスで話し合ってみても良い)。

(2)あなたは、今後の社会保障に関してどのようなことを政府に望みますか。どのような社会が理想ですか。

自由に意見を書いてもらう(理由も一緒に。クラスで話し合ってみても良い)。

本ワークシートは、厚生労働省ホームページの「社会保障教育」ページからダウンロードができます。

(URL : <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/shakaihoshou/kyouiku/index.html>)

なお、予告なく内容を改変したりサービスを停止したりすることがあります。

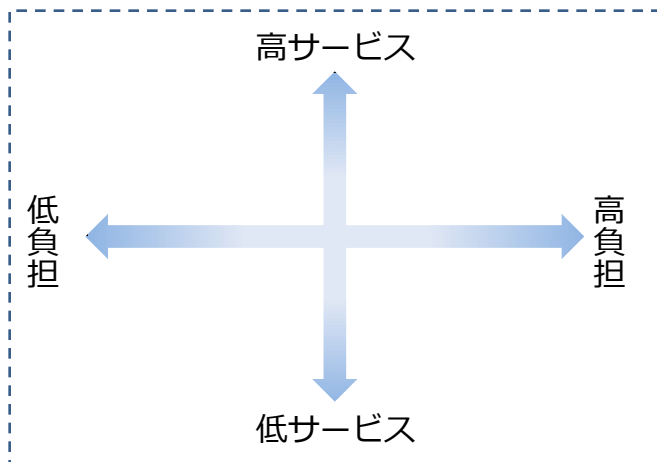
「幸福を分かち合う社会」とは？ “社会保障制度”が果たす役割を理解しよう！

◆「社会保障」に関する“高校生クイズ”

Q 1. 部活中に骨折して、入院・手術……。あなたは窓口で保険証を出して3万円を支払いました。もし、保険証がなかったら、いくら支払うことになるでしょう？

6万円 9万円 10万円 15万円

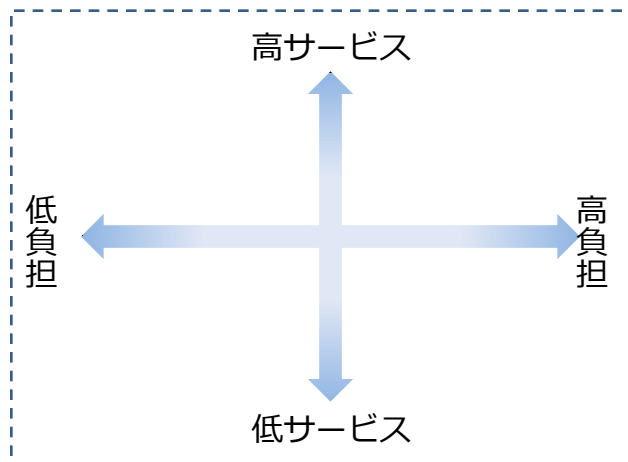
○あなたが望ましいと考える「社会保障制度」とは？



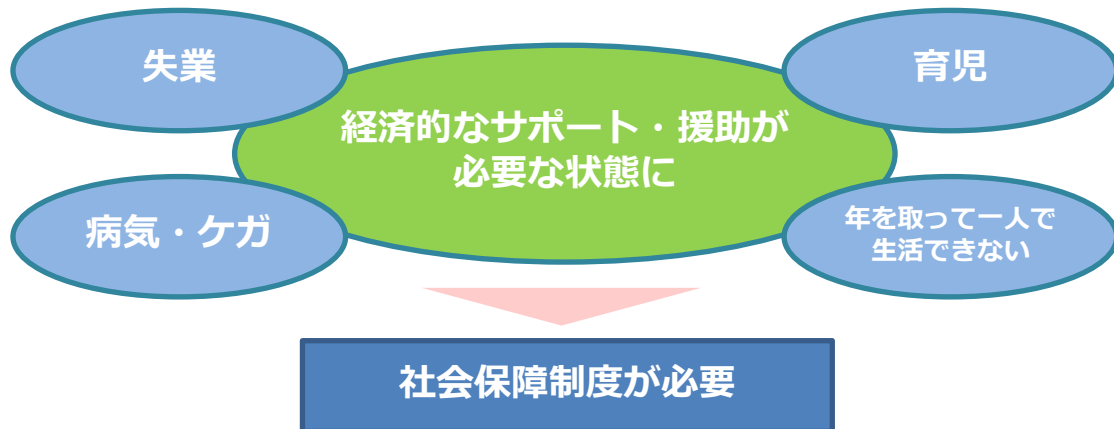
Q 2. 「年金」の保険料は20歳から払いはじめます。それでは、年金の受け取りについて、「20歳から受け取る場合もある？」

ホント ウソ

○実際の日本の「社会保障制度」はどの位置にあると思うか？

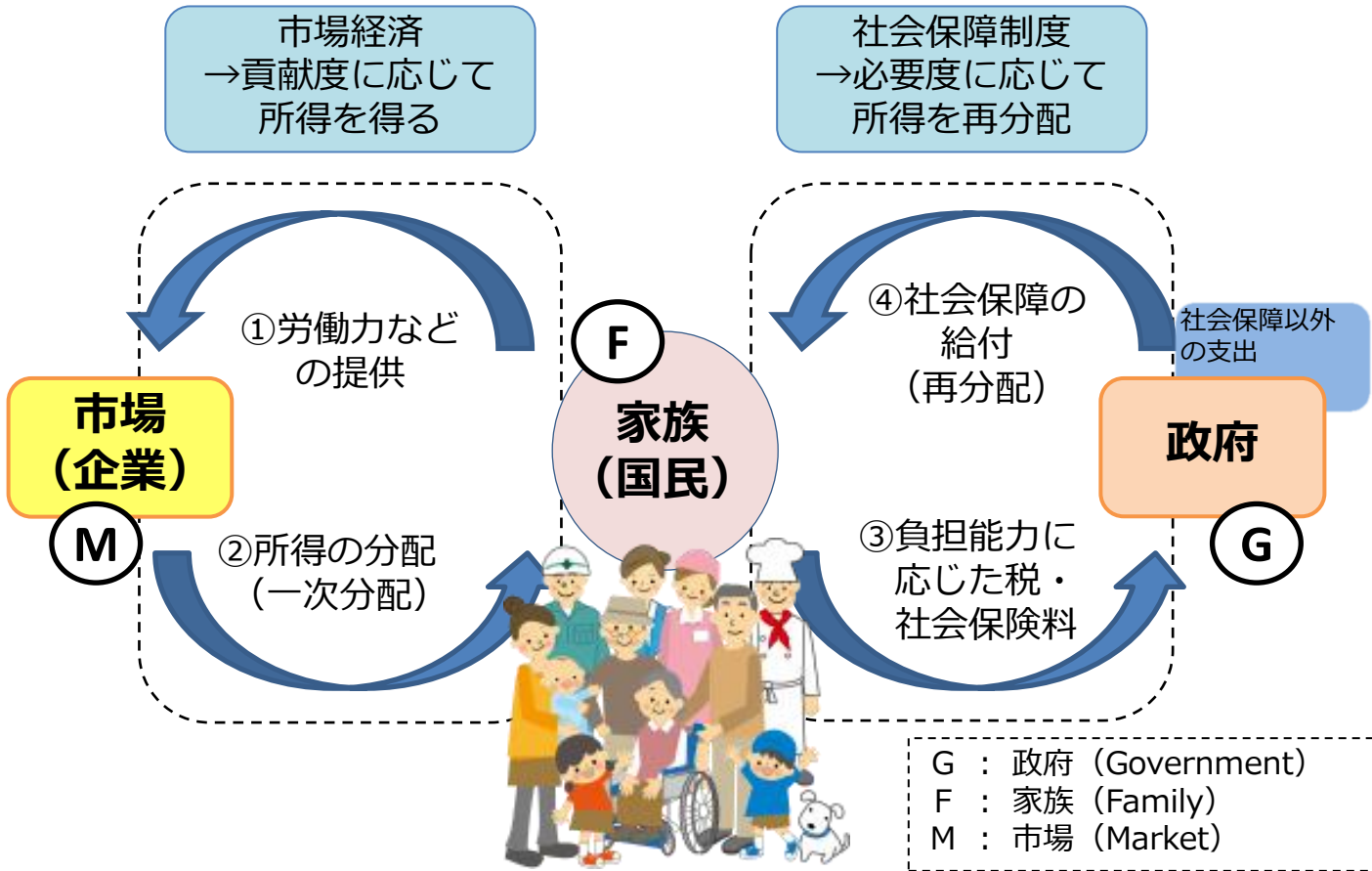


理由は……



◆「社会保障制度」を整理してみよう。

憲法第25条で「生存権」が規定されて以降、日本の社会保障制度は大きく発展し、様々な仕組みが整備されてきた。その中心は、主に（1 ）を財源とする「社会保険」であり、（2 ）を財源とする「社会福祉」や「公的扶助」、「公衆衛生」などがそれを補足している。

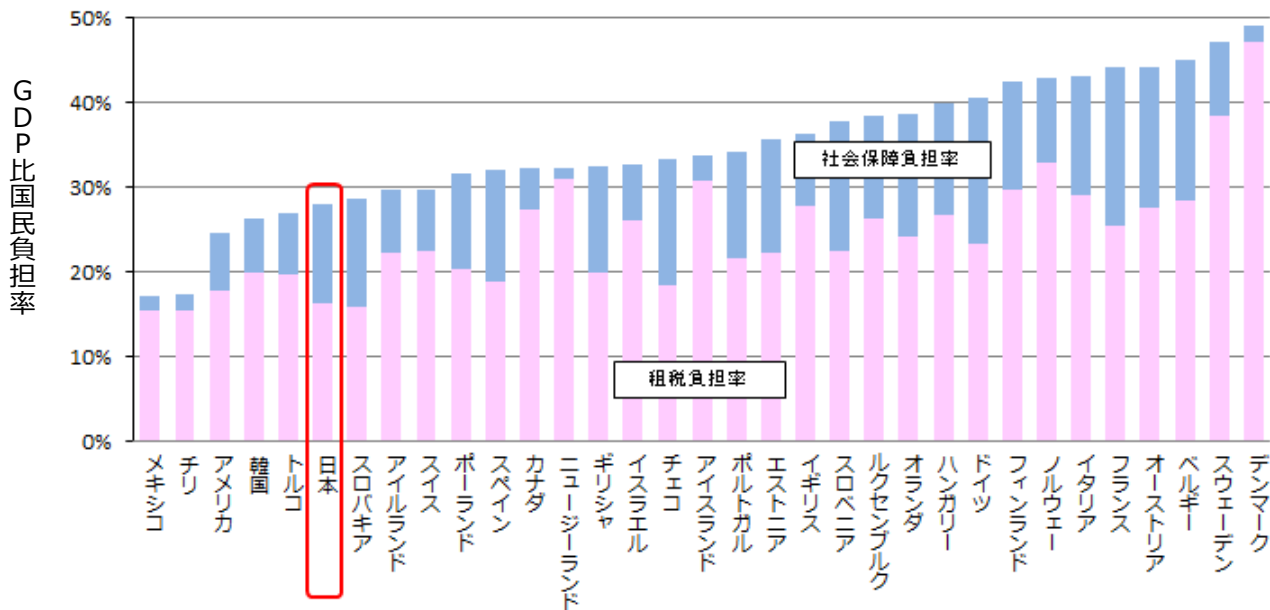


社会保障制度は、私たちが市場での貢献度に応じて得た所得を、必要度に応じて修正する『所得の（ ）機能』を果たしている。

- 経済的なサポート・援助が必要な時のために、あらかじめみんなで出し合った税・社会保険料を基にして社会的に備えておく仕組みがあるので、私たちは安心して毎日の仕事や生活に全力を尽くすことができる。
- 社会保障制度は、所得の低い人に対して所得の移転を通じて生活を保障したり、病気やけが、障害や高齢により、生活上の困難を抱えたときに、それを乗り越えるのに必要な専門的なサービスや生活費を保障している。
- このようにして、私たちは同じ社会の一員としてお互いに支えあっているのである。

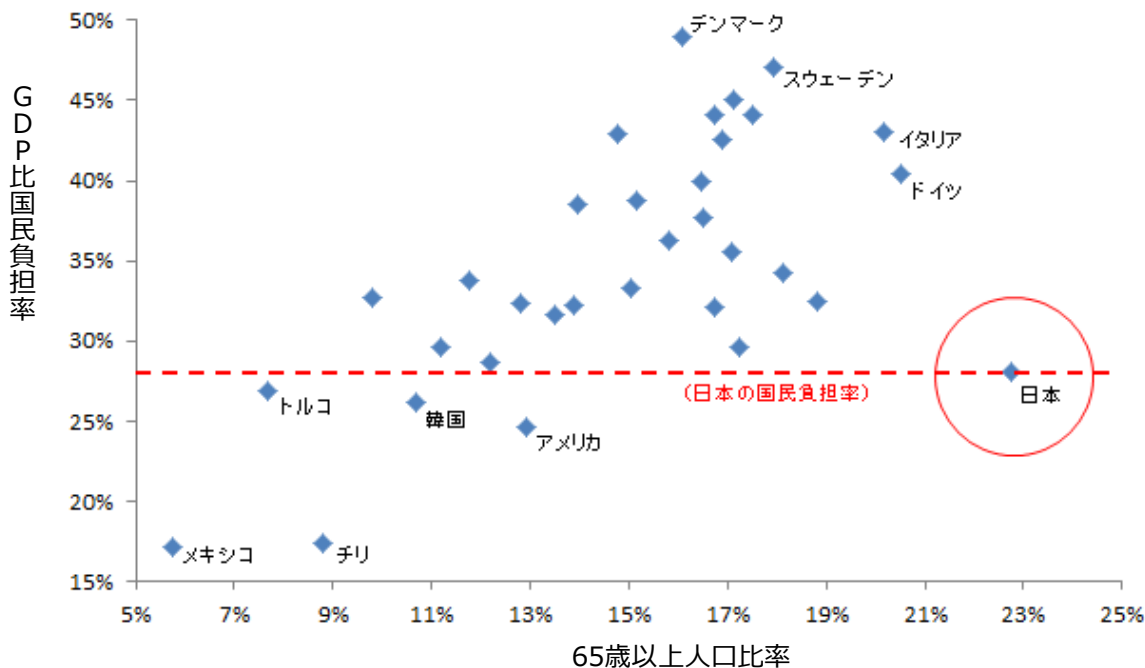
◆ 日本の税金や社会保険料は高い？ 低い？

GDP比国民負担率（2009年）



(注) OECD34カ国中33カ国の実績値（オーストラリアは計数が足りず算出していない）
出所：OECD.Stat (<http://stats.oecd.org/>)

高齢化率とGDP比国民負担率（2009年）



(注) OECD34カ国中33カ国の実績値（オーストラリアは計数が足りず算出していない）
出所：OECD.Stat (<http://stats.oecd.org/>)

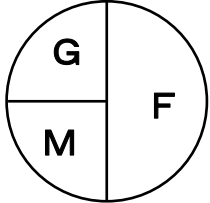

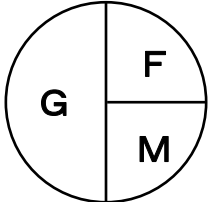

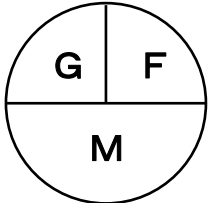

- お年寄りは年金や介護、医療費など、社会保障の受給が多い。
- 日本はOECD加盟国33カ国中ではもとより、世界でもお年寄りの比率が最も高い(注)。
- 国民負担率（税金や社会保険料の水準）は国際的に見て低い。

(注) WHO（世界保健機関）によるWHO加盟194カ国を対象とした統計でも、日本は最も高齢者（60歳以上）の割合が高いとされている。
出所：World Health Organization(2013) "World Health Statistics 2013"

◆「社会保障制度」・・・国によって様々なパターンがある。

福祉ニーズの量は、国によってそれほど変わるものではないが、家族（F）、市場（M）、政府（G）のどこで福祉のニーズを満たしているかは、国によって大きく違う（人々がどんな社会にしたいかを映し出している）。

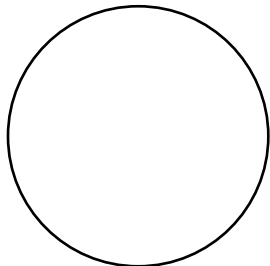
Q：日本、アメリカ、スウェーデンはそれぞれの型に最も近いでしょうか？
下表の右の空欄に国名を記入してください。

	<p><u>家族（F）依存型</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○国民負担率は低い ○家庭内で子育てや介護といった福祉のニーズを満たすため、それを主に担う女性の負担が大きい社会 	 <div data-bbox="1178 405 1399 540" style="border: 1px solid black; width: 155px; height: 70px;"></div>
	<p><u>政府（G）依存型</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○国民負担率は高い ○政府が福祉のニーズを満たしてくれるため、福祉サービスを誰もが比較的平等に利用できる社会 	 <div data-bbox="1178 656 1399 792" style="border: 1px solid black; width: 155px; height: 70px;"></div>
	<p><u>市場（M）依存型</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○国民負担率は低い ○福祉サービスを市場から購入することになるため、個人の所得に応じて福祉サービスの利用に大きな格差が生まれる社会 （高所得者は超豪華なサービスを利用できるが、低所得者はサービスを利用できないこともある） 	 <div data-bbox="1178 946 1399 1081" style="border: 1px solid black; width: 155px; height: 70px;"></div>

※ F、M、Gは、それぞれ家庭、市場、政府が提供する福祉サービス。

あなたの考えは？

あなたはどんな社会がいいと思う？



理由は？..

今日の授業の感想を書こう

「社会保障の理念やあり方を考える」ワークシート 活用マニュアル(解答例とねらい)

この教材のねらい

この教材は、社会保障制度の基本的な考え方や、その給付と負担のあり方などについて、幅広い議論が展開できるように作成しています。

教材は「ワークシート」形式になっており、ワークシートに沿って学習を進めることで、議論をより深いものにすることを目指しています。

社会保障制度については、世界でも様々な考え方があり、各国によって制度は異なっています。つまり、社会保障制度は、その国の社会・生活に対する価値観を反映したもので、ということが出来ます。

したがって、設問については、必ずしも一つの「正しい解答」があるものばかりではありません。

学習を進めるにあたっては、生徒に自由に意見を発表させたり、議論させたりして、主体的に考えさせることに重点を置いてください。

この教材を通じた学習は、公的年金のあり方や、保険料を納める意味、少子高齢化への対応など社会保障制度のあり方について考えるきっかけとなり、社会の一員としての自覚を身に付けることが期待できます。

学習指導要領との関係

このマニュアルに沿った学習は、公民科・家庭科の教科目標の達成に資するものと考えられます。

(公民科の教科目標)

「広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」

(家庭科の教科目標)

「人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる」

「社会保障」に関する“高校生クイズ”

- ★ねらい
- 「社会保障」の学習にあたって、身近な事例での扱いを問いかけることで、興味・関心を持たせる。
 - 公的医療保険制度が、病気やケガの時の医療費負担を軽減する役割を果たしていることに気づかせる。
 - 公的年金制度が、高齢期だけでなく若年期にも給付（障害年金・遺族年金）があり得ることに気づかせる。

★解説

(Q1)日本では「国民皆保険」が達成されている。
 保険証を提示することで、全国のほとんどの医療機関で保険診療を受けることができ、窓口ではかかった医療費の3割（年齢により異なる）の自己負担で済んでいる。

(Q2)年金が給付されるのは、高齢になったときの老齢年金のほか、障害をもったときには障害年金、生計維持者が死亡したときには遺族年金が給付される。
 設問の場合、20歳の時に障害をもった場合に障害年金（年金に加入中の病気やけが等が原因で、障害を有することになった場合に支給される）が給付されるため「ホント」が正答。

- あなたが望ましいと考える「社会保障制度」とは？
- 実際の日本の「社会保障制度」はどの位置にあると思うか？

- ★ねらい
- 社会保障制度を考える上で避けることができない「給付と負担」の問題についての導入。
- ★解説
- 日本の公的社會支出の対GDP比は一貫してOECD平均よりも低かったが、近年増加傾向にあり2009年時点でOECD平均とほぼ同水準となっている（右下のグラフ参照）。
 - また、国民負担率の水準は、主要国では高齢化の進展に伴いおおむね上昇しているが、特に高齢化が進展している日本においては近年ほぼ横ばいで推移しており、相対的には低負担と考えられる（3頁参照）。
- ★展開の工夫
- 左右のマトリクスを生徒に自由に考えてもらう（理由も）。「高サービス・低負担」のセルを選択した場合には、その上で誰が負担すべきかを生徒に問うなどして考えさせても良い。
 - 黒板に同じ図を書いて、生徒にシール等を貼らせても良い。
 - ここでは正解を求めたり説明したりするのではなく、生徒自身が考える社会保障制度の理想型と、現実世界との間にギャップがあることをイメージしてもらえれば良い。

下段の図

- ★解説
- 社会保障制度の役割は、老齢・病気・貧困などの様々なリスクから、国民の生活を守ることである。
 - 社会保障は、人々が安心して生活できる重要な基盤であり、これがあるから経済社会の安定や発展が支えられている。

「幸福を分かち合う社会」とは？
 “社会保障制度”が果たす役割を理解しよう！

◆「社会保障」に関する“高校生クイズ”

Q1. 部活中に骨折して、入院・手術…。あなたは窓口で保険証を出して3万円を支払いました。もし、保険証がなかったら、いくら支払うことになるでしょう？

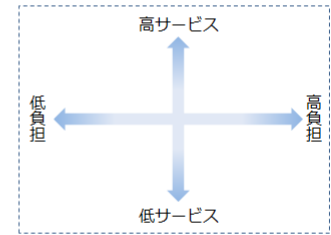
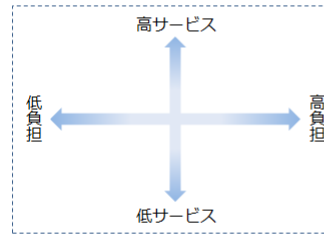
6万円 9万円 **10万円** 15万円

Q2. 「年金」の保険料は20歳から払いはじめます。それでは、年金の受け取りについて、「20歳から受け取る場合もある？」

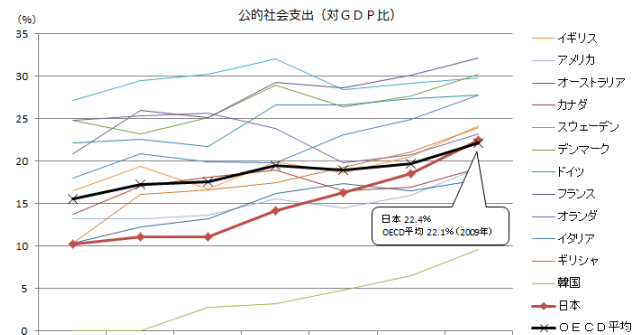
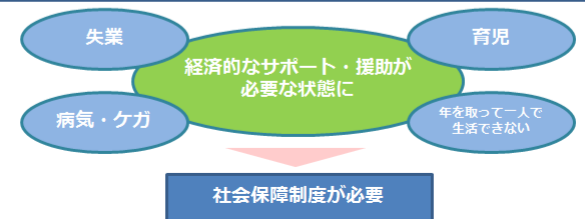
ホント ウソ

○あなたが望ましいと考える「社会保障制度」とは？

○実際の日本の「社会保障制度」はどの位置にあると思うか？



理由は…
 自由に意見を出してもらおう



「社会保障制度」を整理してみよう①

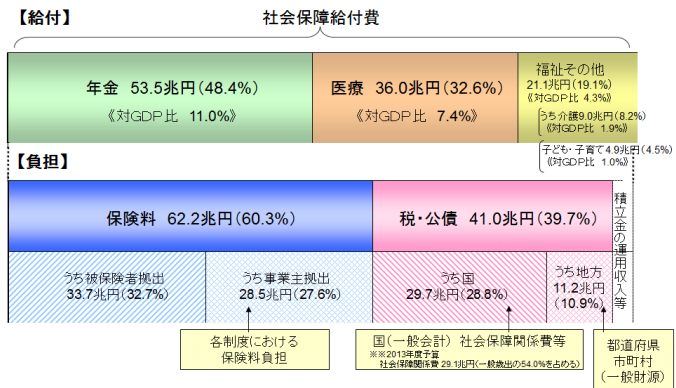
上段の箱

★ねらい

- 社会保障制度の負担主体による区分を整理した上で、給付と負担を通して社会保険制度が果たしている機能を理解させる。

★解説

- 社会保障給付費を賄う財源の構成は、社会保険料（被保険者や企業が支払う保険料）が約60%（62.2兆円）、税金や公債が約40%（41.0兆円）となっている。これ以外にも、年金の積立金の運用収入や手数料収入等もあるが、割合はそれほど大きくない（2013（平成25）年度予算ベース）。
- また、国などが負担している財源を税収で賄うことができず、約半分が公債で賄われている（つまり、「借金」）。
- なお、社会保険料収入の約60兆円という規模は、税収や公債金収入から社会保障に使われる金額（約40兆円）よりも大きい。

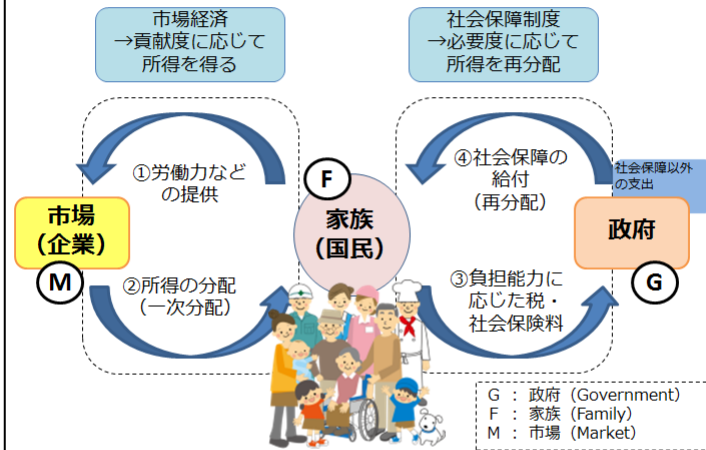


※ 社会保障給付の財源としては他に資産収入などがある。

- 日本の社会保障制度は、社会保険料を主な財源とする「社会保険」と、税金を財源とする「社会福祉」や「公的扶助」、「公衆衛生」などに大別できる。
- 現在、日本の社会保険には、病気・けがに備える「医療保険」、年をとったときや障害を負ったときなどに年金を支給する「年金保険」、失業するリスクに対する「雇用保険」、仕事上の病気・ケガに備える「労災保険」、加齢に伴い介護が必要になったときの「介護保険」がある。
- 一方、税金を財源とする制度には、公的扶助としての生活保護のほか、児童福祉、障害者福祉といった社会福祉制度もある。
- 社会保障給付費（総額110.6兆円）を「医療」「年金」「福祉その他（※）」の3つの部門別に見ると、年金に48.4%（53.5兆円）、医療に32.6%（36.0兆円）、福祉その他に19.1%（21.1兆円）のお金が社会保障制度を通じて支出されている（2013（平成25）年度予算ベース）。
- なお、社会保障給付費（約110兆円）は、国の歳出総額（約90兆円）よりも大きい。

◆「社会保障制度」を整理してみよう。

憲法第25条で「生存権」が規定されて以降、日本の社会保障制度は大きく発展し、様々な仕組みが整備されてきた。その中心は、主に（1）社会保険料を財源とする「社会保険」であり、（2）税金を財源とする「社会福祉」や「公的扶助」、「公衆衛生」などがそれを補足している。



社会保障制度は、私たちが市場での貢献度に応じて得た所得を、必要度に応じて修正する『所得の（再分配）機能』を果たしている。

- 経済的なサポート・援助が必要な時のために、あらかじめみんなで出し合った税・社会保険料を基にして社会的に備えておく仕組みがあるので、私たちは安心して毎日の仕事や生活に全力を尽くすことができる。
- 社会保障制度は、所得の低い人に対して所得の転移を通じて生活を保障したり、病気やけが、障害や高齢により、生活上の困難を抱えたときに、それを乗り越えるのに必要な専門的なサービスや生活費を保障している。
- このようにして、私たちは同じ社会の一員としてお互いに支えあっているのである。

上段の箱

- 社会保障給付費の配分を先進諸国と比べると、3部門のうち「福祉その他」の割合が少ない。中でも、子どもに対する給付（児童手当等）の規模が小さいという特徴がある。

※ 「福祉その他」には、医療扶助以外の生活保護費、児童手当などの社会手当、社会福祉サービス費、雇用保険給付などが含まれる。

「社会保障制度」を整理してみよう②

中段の図

★ねらい

- 社会保障制度が果たしている機能のひとつである「所得の再分配機能」について理解させる。

★解説

- 所得の再分配機能とは、所得を個人や世帯間で移転させることにより、貧富の差を縮小し、国民の生活の安定を図るものである。
ワークシートの図では、
(1)国民は労働力の対価として賃金を得る（一次分配）（①②）。
(2)賃金の中から負担能力（所得）に応じた税や社会保険料を負担する（③）。
(3)政府はそれらを財源として、必要とする人に社会保障を給付する（④）。
という構図を示している。
- 市場経済では、言わば貢献度に応じて所得が分配されるが、貧富の差が拡大する懸念がある。社会保障制度は、国や地方公共団体が国民から税や社会保険料という形で費用を集め、これを金銭や福祉サービスを必要とする人に現金給付や現物給付という形で支給するという所得移転を行っている（所得の再分配）。
- 例えば、生活保護制度は、税を財源にした「所得のより多い人」から「所得の少ない人」への再分配であり、公的年金制度は社会保険料を主要財源にした、現役世代から高齢世代への仕送りの社会化（再分配）とみることができる。また、公的医療保険制度では、所得に応じて保険料負担を求めるが、受けられるサービスは基本的に同じである。

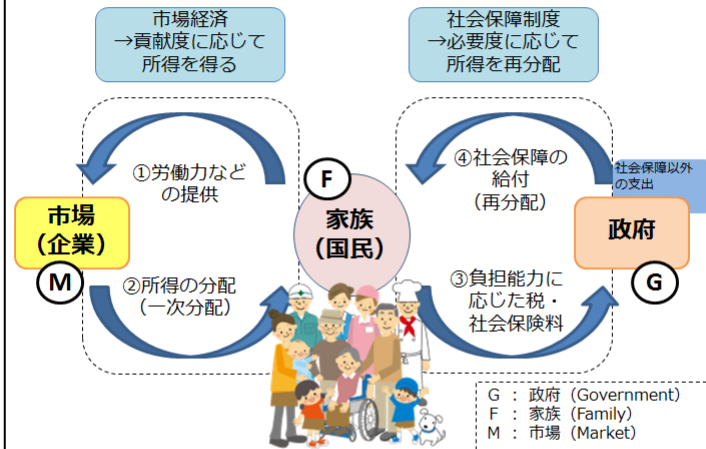
下段の箱

★解説

- 社会保障には、「生活安定・向上機能」（生活の安定を図り安心をもたらす）や、「所得再分配機能」（所得を個人や世帯間で移転させることにより、貧富の差を縮小し、国民の生活の安定を図るもの）といった機能がある。
- これらの機能を通じて、私たちはお互いに支えあっている。たとえば、生活保護でいえば高所得層が低所得層を、年金でいえば現役世代が高齢世代を、医療保険でいえば健康な人が病気やけがの人を支えていると言える。
- また、たとえば年金や介護で考えると、「個々人で（私的に）親を支えていた」のを「社会全体での支え合い（社会化）」に広げた制度であり、かつては家族で直接支援してきた私的な支出が軽減されており、高齢世代だけでなく現役世代にとっても大きな意義があると言える。
- 病気やけが、失業といった予期しないリスクに対して、あらかじめ税や保険料を出し合って備えておくことで、安心して生活を送ることができる。これが社会保障制度の重要な機能の一つである（生活安定・向上機能）
- 「経済的なサポート・援助が必要な時」として、どういったものがあるかを生徒自身に考えさせてみるのも良い。

◆「社会保障制度」を整理してみよう。

憲法第25条で「生存権」が規定されて以降、日本の社会保障制度は大きく発展し、様々な仕組みが整備されてきた。その中心は、主に（1）社会保険料）を財源とする「社会保険」であり、（2）税金）を財源とする「社会福祉」や「公的扶助」、「公衆衛生」などがそれを補足している。



社会保障制度は、私たちが市場での貢献度に応じて得た所得を、必要に応じて修正する『所得の（再分配）機能』を果たしている。

- 経済的なサポート・援助が必要な時のために、あらかじめみんなで出し合った税・社会保険料を基にして社会的に備えておく仕組みがあるので、私たちは安心して毎日の仕事や生活に全力を尽くすことができる。
- 社会保障制度は、所得の低い人に対して所得の移転を通じて生活を保障したり、病気やけが、障害や高齢により、生活上の困難を抱えたときに、それを乗り越えるのに必要な専門的なサービスや生活費を保障している。
- このようにして、私たちは同じ社会の一員としてお互いに支えあっているのである。

日本の税金や社会保険料は高い？低い？

★ねらい

- 諸外国との比較から日本における社会保障の負担規模を把握させる。
- また、65歳以上人口比率との対比では、諸外国に比して負担規模が必ずしも大きくないことを理解させる。

★解説

- 社会保障を含めた国の政策のための費用は、国民、つまり家計や企業が租税や社会保険料という形で、その所得のうちから負担する(※)。
- ※実際には、歳出と収収等の差額を国の借金である公債等の発行によって埋め合わせており、普通国債残高は1990(平成2)年度から約540兆円増加し、2012(平成24)年度末には700兆円を超えた(約705兆円)。
- また、将来世代への負担の先送りとなる財政赤字を国民負担率に含めた「潜在的な国民負担率」を一定の比率にとどめ政府の規模を抑制すべき、という主張もある。
- 上段のグラフは、その負担割合をGDPとの対比で示したものである(国民所得に占める割合で算出する方法もある)。これは、前頁の「②所得の分配(一次分配)」に占める「③負担能力に応じた税・社会保険料」の割合と同じ。
- 日本の国民負担率の水準は国際的に見て低位にある(上段のグラフより)。
- 日本は、65歳以上人口比率がOECD加盟国の中で最も高いというだけでなく、WHO(世界保健機関)による統計(WHO加盟国194カ国を対象)においても最も高齢者(60歳以上)の割合が高いとされており、世界でも高齢化が最も進んだ国と言えるが、高齢化率の高さに対して国民負担率の水準は低いと言える(下段のグラフより)。
- 社会保障支出は、OECD諸国でも高齢化の進展により増加しており、日本も増加傾向にある。一方で、国民負担率の水準は主要国ではおおむね上昇しているが、日本では近年ほぼ横ばいで推移している。

★展開の工夫

- 「国民負担率」の名称が適切かについて考察してみることも有効と思われる。

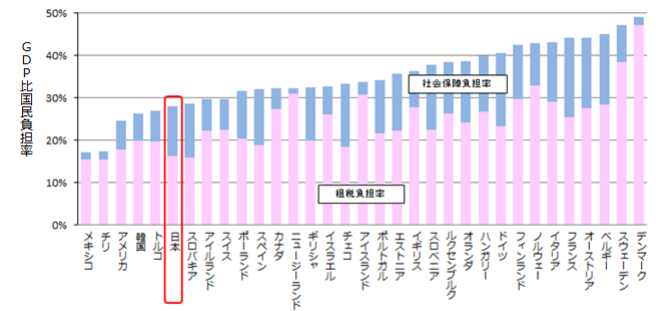
例)

先生) 税金や社会保険料を払うことは「負担」なのかな？
 生徒A) 支払う金額が少ない方が、その分自分で自由に使えるお金が増えるのだから少ない方がいいんじゃない？
 生徒B) でも、税金や社会保険料が少なければ、その分年金や医療保険に回ってお金が少なくなるよ。たとえば、介護サービスは税金や社会保険料からのお金が原資になって運営されているけど、介護サービスが提供されなくなったら自分の親が介護状態になったとき誰が面倒をみるの？
 生徒A) やっぱり家族で面倒みるしかないかな。
 生徒B) そう。みんなが税金や社会保険料を払わないと、その分は家族などに負担がかかる。だから、税金や社会保険料は介護状態の家族を持っている人を支えるためのお金とも言えるよね。それでも、税金や社会保険料を払うのは「負担」なのかな？
 生徒A) 税金や社会保険料の支払いは強制なんだから、やっぱり「負担」なんじゃない？
 先生) 実は、税金や社会保険料を「国民負担」と呼ぶことについては以前から議論があるんだ。だとすると、他にはどんな呼び方があるかな？

※この問題に「正解」はないので、自由に考えを述べてもらえばよい。税金や社会保険料の支払いを「支出＝負担」という一側面だけでなく、多角的に考えることができればよい。次頁の設問にもつながる。他の呼び方の例としては、「国民連帯率」といった答えが考えられる。

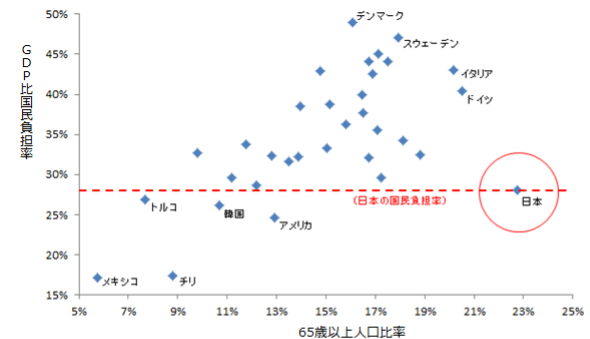
◆日本の税金や社会保険料は高い？低い？

GDP比国民負担率(2009年)



(注) OECD34か国中33か国の表債権(オーストラリアは計算が足りず算出していない)
 出所: OECD.Stat (<http://stats.oecd.org>)

高齢化率とGDP比国民負担率(2009年)



(注) OECD34か国中33か国の表債権(オーストラリアは計算が足りず算出していない)
 出所: OECD.Stat (<http://stats.oecd.org>)

- お年寄りは年金や介護、医療費など、社会保障の受給が多い。
- 日本はOECD加盟国33か国中ではもとより、世界でもお年寄りの比率が最も高い(注)。
- 国民負担率(税金や社会保険料の水準)は国際的に見て低い。

(注) WHO(世界保健機関)によるWHO加盟194カ国を対象とした統計でも、日本は最も高齢者(60歳以上)の割合が高いとされている。
 出所: World Health Organization(2013) "World Health Statistics 2013"

「社会保障制度」・・・国によって～

★ねらい

- 社会保障制度が国際的に一律なものではなく、各国の歴史や文化的背景によって、いくつかのタイプに分けられることに気づかせる。
- 社会保障の類型（依存すべき提供主体）を考えさせることで、社会保障が果たしている機能は、誰かが負担を担わなければ達成されないものであることに気づかせる。

★解説（※）

- 「家族依存型」の特徴は、伝統的な家族主義的な考え方や職域を重視する志向が強い。そのため、「家族依存型」の国における社会保障制度は職域ごとの社会保険制度を中心に発展しており、また、家族が扶養責任を果たせないときのために用意されているという性格がある。そのため、子育て・介護といった家族給付が少なく、高齢者向け給付が多い傾向にある。そのため、主に女性の家事負担が大きくなる傾向がある。この類型の特徴は、イタリアなど南ヨーロッパ地域の国に多く見られる。日本も高齢者給付が多い点や、戦後に構築された、男性の正規労働者（夫）と専業主婦（妻）というモデルが示すように、女性の家事負担が大きくなる傾向がある点について、この類型の特徴を有していると言える。
- 「政府依存型」の特徴は、高所得者であれ低所得者であれ、皆が同じ権利を持ち同じ給付を受けるという考え方を強く持っている。生活上のリスクを社会的な制度でカバーする範囲が広い。そのため、社会保障支出の水準は高く負担の水準も高い（高福祉・高負担）。社会保障は国家が中心的役割を担い、いわゆる大きな政府となりやすい。典型例は、スウェーデン、デンマーク、ノルウェーが挙げられる。
- 「市場依存型」の特徴は、小さな国家、リスク管理に対する自己責任、市場中心の問題解決を志向する傾向にある。その結果、社会保障支出は比較的低水準で限られた人に給付され、社会保障負担の水準は比較的低水準となっている。多くの人は民間企業が提供する医療保険サービスに加入するなどの自助努力的な対応をとっている。典型例としては、アメリカが挙げられる。

※上記の類型化は、デンマーク出身の社会政策学者であるエスピン＝アンデルセンによる「福祉レジーム論」を参考にしてしている。

福祉レジームは、具体的には、

- ①自由主義レジーム（アメリカなどのアングロ・サクソン諸国など。市場の役割が大きい）
- ②社会民主主義レジーム（スウェーデン、デンマークなどの北欧諸国。政府の役割が大きい）
- ③保守主義レジーム（ドイツ、フランスなどの大陸ヨーロッパ諸国。家族や職域の役割が大きい）

の3つに類型化される。ただし、あくまで類型化の目安であるため、個別の社会保障制度を見た場合、必ずしも適合しない場合がある。

なお、フランスはもともと家族や地域の役割を重視し政府による家族関係支出が抑え気味であったため、エスピン＝アンデルセンによる類型化では「保守主義レジーム」に分類されているが、近年、家族向け給付を充実させる政策を積極的に打ち出している。

◆「社会保障制度」・・・国によって様々なパターンがある。

福祉ニーズの量は、国によってそれほど変わるものではないが、家族（F）、市場（M）、政府（G）のどこで福祉のニーズを満たしているかは、国によって大きく違う（人々がどんな社会にしたいかを映し出している）。

Q：日本、アメリカ、スウェーデンはそれぞれどの型に最も近いでしょうか？
下表の右の空欄に国名を記入してください。

	<p>家族（F）依存型</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国民負担率は低い ○家庭内で子育てや介護といった福祉のニーズを満たすため、それを主に担う女性の負担が大きい社会 	<p>日本</p>
	<p>政府（G）依存型</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国民負担率は高い ○政府が福祉のニーズを満たしてくれるため、福祉サービスを誰もが比較的平等に利用できる社会 	<p>スウェーデン</p>
	<p>市場（M）依存型</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国民負担率は低い ○福祉サービスを市場から購入することになるため、個人の所得に応じて福祉サービスの利用に大きな格差が生まれる社会（高所得者は超豪華なサービスを利用できるが、低所得者はサービスを利用できないこともある） 	<p>アメリカ</p>

※F、M、Gは、それぞれ家庭、市場、政府が提供する福祉サービス。

あなたの考えは？

あなたはどんな社会がほしいと思う？

理由は？…

自由に意見を出してもらおう

今日の授業の感想を書こう

「社会の一員として生きていくこと」とは

あなたも何年後かには、自分で働いてお金を稼ぎ、社会の一員として自立して生きていくことになります。

(1) 高校卒業後の初任給(157,000円とします)で、自立した一人暮らしのやりくりを考えてみましょう。

		記入欄	参考資料			備考
			節約型	普通	贅沢型	
支出	家賃	, 円	50,000	65,000	75,000	給料の1/3が目安
	食費	, 円	25,000	30,000	40,000	
	水道・光熱費	, 円	6,000	10,000	15,000	
	携帯等通信費	, 円	3,500	5,000	10,000	
	娯楽費	, 円				
	税・社会保険料	, 円				
	預貯金その他	, 円				給料の約10%
合計	, 円					

* 税・社会保険料は想像で記入してみよう

① 収入から支出合計を引いた額は?
(プラスの額があればそれは預貯金に加えられます)

円

② マイナスの人は何を減らしますか?

(2) 頑張ってやりくりして生活しているあなたは、以下の事態に直面しました。あなたならどうしますか?

① 病気にかかり2週間入院。医療費が合計で50万円。

② 会社が倒産、失業してしまい、次の仕事を探すまで3ヶ月かかった。

(3) 働いて自分の力で生活していくことは大切なことですが、病気や障害などやむを得ない理由でそれが困難になる人もいます(誰もがその可能性があります)。そういう人にどう対処するべきと思いますか。

わたしたちの生活と社会保障

(イメージ)

社会保障制度は社会の知恵。一生を通じて私たちの生活を守り、ひいては社会の安定を守っています。

社会保障制度は、私たちが支払う保険料（収入に応じて負担）と税金で運営され、負担を分かち合っています。

国民年金加入
保険料支払開始

所得税支払開始

子ども期

- ✓ 子どもの健やかな育ちを支える
- ✓ 子育てを応援する

認定こども園
保育所
幼稚園

予防接種
乳幼児健康診査

児童手当

放課後児童クラブ

就学

出産育児の費用の支援
病気・けがの治療

支え合いの制度

それぞれが、生活上の様々なリスクに備えて、社会保険料を支払い、万に備えて支え合います。

公的な支援の制度

税を財源として、対象となる人々を公的に支援します。

成人期

- ✓ 可能な限り自立した生活となるよう様々なリスクに対する保障を行う
- ✓ 重層的なセーフティーネットで支える
- ✓ より子どもを生み、育てやすい環境を整える

出産・子育て支援

妊産婦健康診査
育児休業制度
各種子育て支援策 等



出産

病気やけがの時は…



親の介護や
扶養が必要になったら…

私的扶養等

退職

公的扶養等
(負担軽減)

就事中事故に遭ったら…

就職

結婚

成人

病気・けがの治療

業務上の事故を補償

失業したら…

失業時のサポート

ハローワークの就職支援
雇用促進（若者・女性・障害者）
求職者支援制度 等

高齢期

- ✓ 老後の生活の安定を支える
- ✓ 住み慣れた場所での安心した暮らし



病気・けがの治療

介護が必要な方の
生活を支援

老後の生活の支え

障害年金

地域社会での安心した暮らし

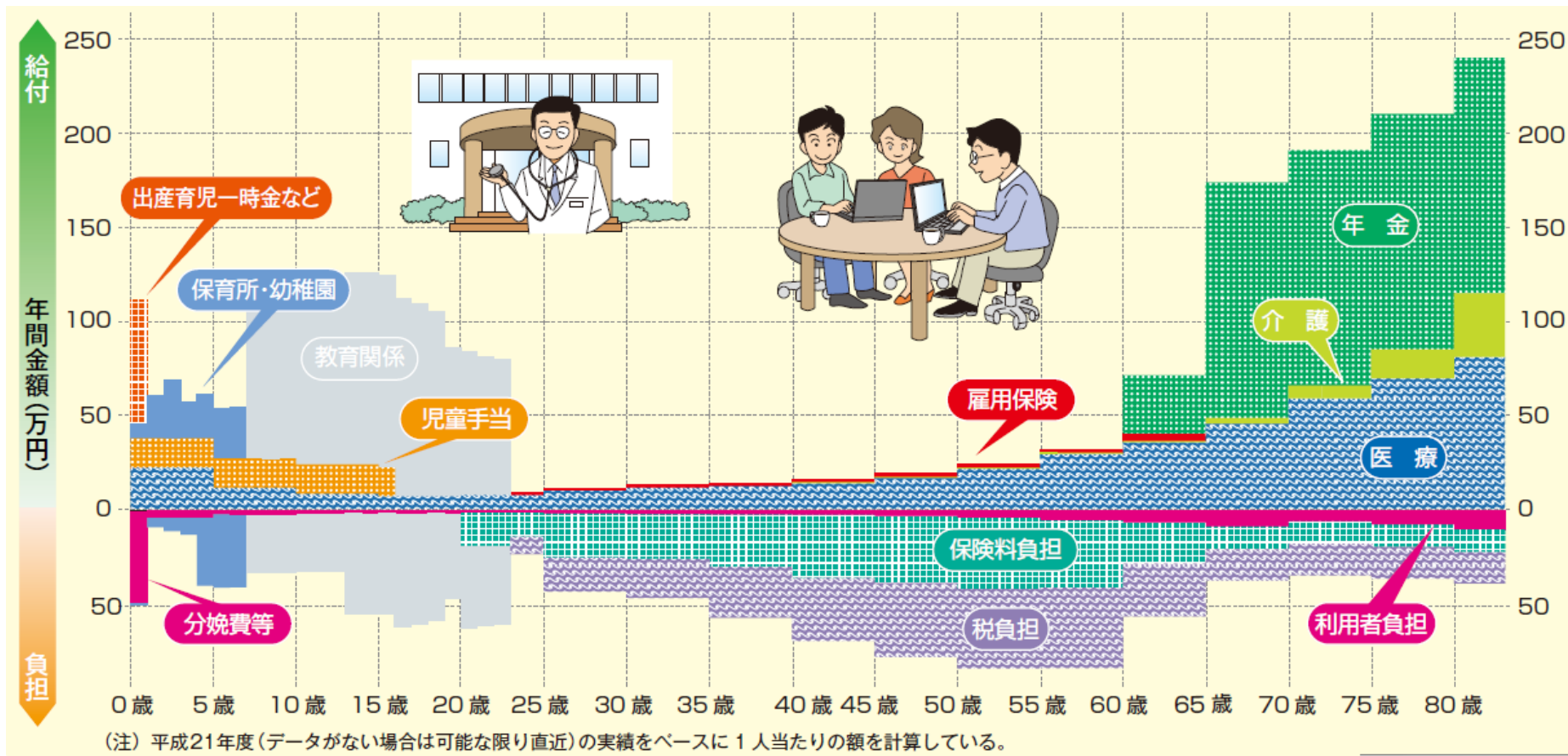
障害者福祉サービス

生活保護

どうしても生活が
困窮したら

医療扶助、生活扶助などの給付
受給者のための就労支援

ライフサイクルでみた社会保障の給付と負担のイメージ



- ここまでの学習で、社会保障制度に対するイメージはどう変わりましたか？

高校生として必ずおさえておきたい “年金の基礎知識”

「国民年金」を例にとり、社会保障に必要なお金をどのように集めて、どのように配分しているのかを見てみましょう。



- 20～59歳の国民が支払う保険料の水準（程度）と、お年寄りなどが受け取る年金の水準（程度）と、どちらを重視していくべきだと思いますか？

保険料を払い始める時期は？

大学に進学する場合 → 20歳から国民年金に加入することになります。

中学や高校を卒業して就職する場合 → 勤め先で厚生年金に加入することになります。（給料から天引きされます）

どうしても払えない時は？

国民年金の保険料の納付が免除・猶予される制度があります。ただし、申請が必要です。

1. 学生で本人の前年所得が一定額以下の場合、保険料の納付が猶予されます。（学生納付特例制度）
2. 所得が一定額以下の場合に保険料が免除となる制度があります。

【免除の対象となる所得のめやす】(2012年度)

世帯構成	全額免除 若年者猶予	3/4免除	半額免除 学生特例	1/4免除
4人世帯 (夫婦+子2人)	162万円	230万円	282万円	335万円
2人世帯 (夫婦のみ)	92万円	142万円	195万円	247万円
単身世帯	57万円	93万円	141万円	189万円

※収入から各種控除した後の所得ベース

高校生として必ずおさえておきたい“公的年金のメリット”

●年金と貯蓄を比べてみましょう！

私たちは自分がどれくらい長生きするかわかりません。また、50年後の生活水準を予測することもできません。老後に備えて貯金することは大事なことです。長い人生には、自分1人では対応できないこともあります。公的年金があるのは、こうしたリスクへ社会全体で備える必要があるからです。

老後に備えて貯蓄しても…

人は、何歳まで生きるかは予測できない。
(どれだけ貯蓄をすればよいのかわからない)

50年後の物価や賃金の変動は予測できない。
(貯蓄しても、将来目減りするかもしれない)

いつ、障害を負ったり、小さな子どもがいる時に
配偶者を亡くす(=所得を失う)かわからない。





公的年金なら…

終身(亡くなるまで)で受給できる

実質的な価値を保障された年金を受給できる

障害年金・遺族年金を受給できる

昔の物の値段を考えてみよう！

	うどん1杯	カレー1皿	食パン1kg	コーヒー1杯
1965年	<input type="text"/> 円	<input type="text"/> 円	<input type="text"/> 円	<input type="text"/> 円
↓				
2010年	595円	742円	438円	411円

「身近な社会保障を学んでいく」ワークシート 活用マニュアル(解答例とねらい)

この教材のねらい

この教材は、社会保障制度とわたしたちの生活がいかに密接に関与しているかを理解した上で、その給付と負担のあり方などについて、幅広い議論が展開できるように作成しています。

教材は「ワークシート」形式になっており、ワークシートに沿って学習を進めることで、議論をより深いものにすることを目指しています。

社会保障制度については、世界でも様々な考え方があり、各国によって制度は異なっています。つまり、社会保障制度は、その国の社会・生活に対する価値観を反映したもので、ということができます。

したがって、設問については、必ずしも一つの「正しい解答」があるものばかりではありません。

学習を進めるにあたっては、生徒に自由に意見を発表させたり、議論させたりして、主体的に考えさせることに重点を置いてください。

この教材を通じた学習は、公的年金のあり方や、保険料を納める意味、少子高齢化への対応など社会保障制度のあり方について考えるきっかけとなり、社会の一員としての自覚を身に付けることが期待できます。

学習指導要領との関係

このマニュアルに沿った学習は、公民科・家庭科の教科目標達成に資するものと考えられます。

(公民科の教科目標)

「広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」

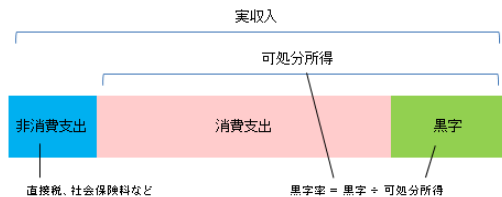
(家庭科の教科目標)

「人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力を実践的な態度を育てる」

「社会の一員として生きていくこと」とは①

- ★ ねらい
 - 初任給での生活をシミュレーションする中で、人生には様々なリスクが存在していることや、自立を支援する仕組みの必要性を理解させる。

- (1)
- ★ ねらい
 - 生活していくこと、やりくりの厳しさを理解させる。
 - ★ 解説
 - 「税・社会保険料」・・・総務省『家計調査年報（家計収支編）平成24年 家計の概況』によれば、勤労者世帯の直接税、社会保険料などの非消費支出の割合は17.9%であった。
 - 「預貯金その他」・・・預貯金額は家族構成や年齢、生活スタイル等によって異なる（必要額に応じて毎月の貯蓄額を決める等）が、貯蓄額がゼロというのは望ましい状態ではないため、10%程度は設定するようにする。
- * 参考
 総務省『家計調査年報（家計収支編）平成24年 家計の概況』では、可処分所得に占める黒字額（可処分所得から消費支出を差し引いた額）の割合である黒字率は勤労世帯で27.9%であった（可処分所得は、実収入から非消費支出を差し引いたもの）。



- ★ 展開の工夫
 - 厳密にやる必要はなく、やりくりの厳しさが実感できれば良い。
 - 「税・社会保険料」については、給与明細や源泉徴収票の実物を用いて説明すると良い。

「社会の一員として生きていくこと」とは

あなたも何年後かには、自分で働いてお金を稼ぎ、社会の一員として自立して生きていくことになります。

(1) 高校卒業後の初任給（157,000円とします）で、自立した一人暮らしのやりくりを考えてみましょう。

	記入欄	参考資料			備考	
		節約型	普通	贅沢型		
支出	家賃	, 円	50,000	65,000	75,000	給料の1/3が目安
	食費	, 円	25,000	30,000	40,000	
	水道・光熱費	, 円	6,000	10,000	15,000	
	携帯等通信費	, 円	3,500	5,000	10,000	
	娯楽費	, 円				
	税・社会保険料	, 円				
	預貯金その他	, 円				給料の約10%
合計	, 円					

* 税・社会保険料は想像で記入してみよう

① 収入から支出合計を引いた額は？
 (プラスの額があればそれは預貯金に加えられます)

_____ 円

② マイナスの人は何を減らしますか？

(2) 頑張ってやりくりして生活しているあなたは、以下の事態に直面しました。あなたならどうしますか？

- ① 病気にかかり2週間入院。医療費が合計で50万円。
- ② 会社が倒産、失業してしまい、次の仕事を探すまで3ヶ月かかった。

(3) 働いて自分の力で生活していくことは大切なことですが、病気や障害などやむを得ない理由でそれが困難になる人もいます（誰もがその可能性があります）。そういう人にどう対処するべきだと思いますか。

「社会の一員として生きていくこと」とは②

(2) ★ねらい
 ○自分の努力だけではどうにもならないリスクの存在に気づき、社会保障制度の必要性を理解させる。

★解説
 ○「貯金を取り崩す」「親から借りる」等の回答も予想されるが、最後は、①②それぞれのケースでの現行制度の保障を説明する。2ページの「私たちの生活と社会保障」を適宜参照。

①公的医療保険
 3割負担は約15万円であるが、この場合、高額療養費制度（負担月額を一定限度（一般的な所得の人で8万円位）におさえる制度）も適用される。

②雇用保険
 たとえば、失業等給付の基本手当は、定年、倒産、契約期間の満了等により離職し、失業中の生活を心配しないで、新しい仕事を探し、1日も早く再就職するために支給されるもの。年齢、雇用保険の被保険者であった期間及び離職の理由などによって、90日～360日の間支給される。

(3) ★解説
 ○個人のカだけでは備えることに限界がある生活上のリスク（病気、けが、老齢、失業、死亡など）に対して、社会全体でセーフティネットを作り支えようとする仕組みが社会保障制度である。

○社会保障制度などの社会の仕組みも理解、活用しながら、生きていくこと、また、こうした支え合いの意義を理解し、参加しようという意識を持つことが社会の一員として生きていくということと言える。

「社会の一員として生きていくこと」とは

あなたも何年後かには、自分で働いてお金を稼ぎ、社会の一員として自立して生きていくことになります。
 (1) 高校卒業後の初任給（157,000円とします）で、自立した一人暮らしのやりくりを考えてみましょう。

	記入欄	参考資料			備考	
		節約型	普通	贅沢型		
支出	家賃	, 円	50,000	65,000	75,000	給料の1/3が目安
	食費	, 円	25,000	30,000	40,000	
	水道・光熱費	, 円	6,000	10,000	15,000	
	携帯等通信費	, 円	3,500	5,000	10,000	
	娯楽費	, 円				
	税・社会保険料	, 円				
	預貯金その他	, 円				給料の約10%
	合計	, 円				

*税・社会保険料は想像で記入してみよう

① 収入から支出合計を引いた額は？
 (プラスの額があればそれは預貯金に加えられます)
 _____ 円

② マイナスの人は何を減らしますか？

(2) 頑張ってやりくりして生活しているあなたは、以下の事態に直面しました。あなたならどうしますか？

- ① 病気にかかり2週間入院。医療費が合計で50万円。
- ② 会社が倒産、失業してしまい、次の仕事を探すまで3ヶ月かかった。

(3) 働いて自分の力で生活していくことは大切なことですが、病気や障害などやむを得ない理由でそれが困難になる人もいます（誰もがその可能性があります）。そういう人にどう対処するべきだと思いますか。

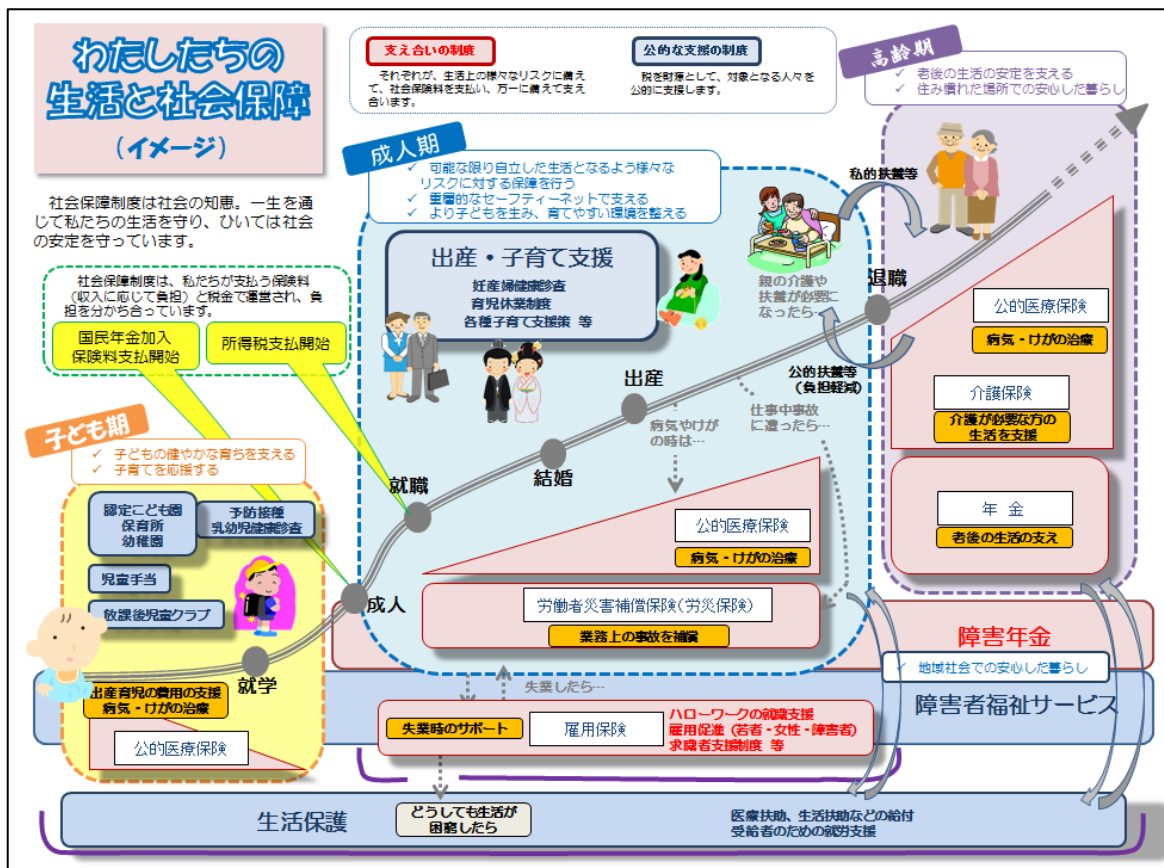
わたしたちの生活と社会保障

★ねらい

- 社会保障制度は、高齢期だけではなく、一生を通じて私たちの生活を守っている、身近なものであることを理解させる。
- 直接的な金銭の給付だけでなく、制度があることで、私的な扶養の負担が軽減されているという役割にも気付かせる。

★展開の工夫

- 一生の間にどんな保障を受けているか、ということ話をしながら、空白部分の制度名を記入させ、制度の全体像をつかむ。
- 同時に、その保障がなかったらどうなるか=あるおかげで助かることを一緒に考える。
 - ・ 公的医療保険（健康保険）なら、ケガや病気の時の経済的負担が軽減されること（スライド中央部分）
 - ・ 年金や介護保険なら、「個々人で（私的に）親を支えていた」のを「社会全体での支え合い（社会化）」に広げた制度であり、かつては家族で直接支援してきた私的な支出が軽減されており、高齢世代だけでなく現役世代にとっても大きな意義があると言える（スライド右上部分）。

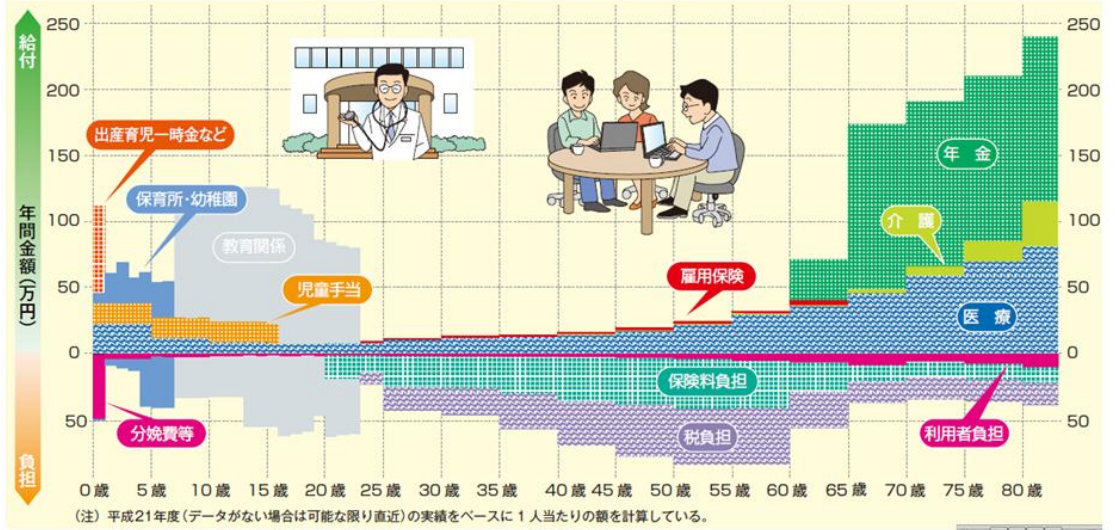


ライフサイクルでみた社会保障の給付と負担のイメージ

- ★ねらい
 - 前ページのシートとあわせて、社会保障が遠い将来のことではなく、一生を通じて深く関わっていることを理解させる。
 - 各世代における給付と負担のイメージをもたせる。
 - 社会保障制度は、(収入に応じて負担する)保険料と税金で運営されている、支え合いのしくみであることを理解させる。
 - 給付と負担の実際の金額がどの程度なのかを気づかせる。

- ★解説
 - 社会保障全般としては各年代に応じた制度が用意されているものの、支出金額の規模でみると高齢者向けの支出が大きい。
 - これは、戦後の日本では、右肩上がりの経済成長と低失業率の実現を背景とした安定的な雇用の維持によって人々(特に現役世代)の生活が支えられていたため、社会保障給付の多くが高齢者のための医療や年金、介護に向けられていたためである。
 - 日本の人口構成は他国に類を見ないスピードで少子高齢化が進んでおり、給付は高齢世代中心、負担は現役世代中心の現在の社会保障制度を見直していく必要がある。
 - 高齢世代が増え、現役世代が減っていく社会であっても社会保障制度を持続可能とするためには、給付・負担両面で人口構成の変化に対応した制度へと改革していくことが必要であり、現在「社会保障と税の一体改革」が進められている。
 - 具体的には、医療、年金、介護など既存の枠組みにも手を加えつつ、子育て支援を中心とする現役世代への給付を手厚くすることや、高齢者にも応分の負担をしてもらうために税制や保険料、利用者負担のあり方を見直すなど、給付・負担両面で人口構成に対応した全世代対応型の制度へと改革していくことが検討されている。
 - ただし、高齢世代向けの給付は、現役世代にとっては、自分の親を私的に扶養する負担が社会保障制度によって軽減されているという面もある。
 - また、現在支える側になっている人(世代)も、病気、けが、老齢、失業、死亡などがあった場合には支えられる側になるものであることには留意が必要である。

ライフサイクルでみた社会保障の給付と負担のイメージ



● ここまでの学習で、社会保障制度に対するイメージはどう変わりましたか？

自由に意見を出してもらおう(理由も一緒に)。
 例) 現役世代から様々な社会保障制度が用意されており、高齢者向けだけではない。
 ・ 公的医療保険のおかげで、けがや病気の時に負担が少なくてすむ。
 ・ 年金は、自分の親を養う費用の肩代わりをしてくれている。 など

ねらいと解説

高校生として必ずおさえておきたい“年金の基礎知識”

★ねらい

- 年金制度を例にとり、社会保障制度の役割「社会保険制度」の基本的な考え方を理解させる。
- 政府が役割を果たしていくためには、財政の問題が不可分であることを理解させる。

上段

★ねらい

- 給付と負担の関係がどうあるべきか、自分で考えさせる。

★解説

- 「国の補助を増やせばいい」という意見が出た場合には、それが結局は税負担の増加が必要になる関係であることを説明する。
- 「自分で積み立てて、老後にもらえる仕組みにすればいい」という意見が出た場合には、現在の勤労世代は、自分の年金を積み立てているわけではないので、その人たちが高齢世代になったときの年金の負担をどうするのかという問題が出てくるなど、長期的な視点で年金をどう支えていくのか、「世代間の公平」の問題も含めて、国民みんなで考えることが必要であることを説明する。

★展開の工夫

- この設問は明確な解答があるものではないので、自由に意見を出させる中で、政府の役割や財政について考えることができれば良い。
- 年金を例にした議論を通じて、社会保険制度における社会連帯、世代間の支え合いの関係、負担と給付のバランス関係の重要性などについて“気づき”が得られると望ましい。

高校生として必ずおさえておきたい“年金の基礎知識”

「国民年金」を例にとり、社会保障に必要なお金をどのように集めて、どのように配分しているのかを見てみましょう。



- 20～59歳の国民が支払う保険料の水準（程度）と、お年寄りなどが受け取る年金の水準（程度）と、どちらを重視していくべきだと思いますか？

自由に意見を出してもらおう(理由も一緒に)。

保険料を払い始める時期は？

大学に進学する場合 → 20歳から国民年金に加入することになります。

中学や高校を卒業して就職する場合 → 勤め先で厚生年金に加入することになります。(給料から天引きされます)

どうしても払えない時は？

国民年金の保険料の納付が免除・猶予される制度があります。ただし、申請が必要です。

1. 学生で本人の前年所得が一定額以下の場合、保険料の納付が猶予されます。(学生納付特例制度)
2. 所得が一定額以下の場合に保険料が免除となる制度があります。

【免除の対象となる所得のめやす】(2012年度)

世帯構成	全額免除 若年者猶予	3/4免除	半額免除 学生特例	1/4免除
4人世帯 (夫婦+子2人)	162万円	230万円	282万円	335万円
2人世帯 (夫婦のみ)	92万円	142万円	195万円	247万円
単身世帯	57万円	98万円	141万円	189万円

※収入から各種控除した後の所得ベース

下段

★ねらい

- 社会保険料を負担し始めるタイミングを伝え、特に国民年金については給与天引きではないため、自らが手続きを行う必要があることを理解させる。
- また、経済的に苦しく保険料を払えない場合に、免除制度や猶予制度という手段があることを理解させる。

★解説

- 経済的に苦しく保険料が払えない場合には、保険料の免除制度を利用することができる(所得に応じて、全額免除の他、4分の1、2分の1、4分の3の免除がある)。免除が認められれば、老後は年金のうち税金分は受け取ることができる。
- 一方、学生や若年者で保険料を払えない場合には、保険料の猶予制度を利用することができる。こちらは、免除制度と異なり、後から保険料を納めること(追納)が前提となっており、追納しなければ老後に年金を受け取ることができない。

ねらいと解説

高校生として必ずおさえておきたい“公的年金のメリット”

★ **ねらい**
○ 年金と貯金を比較することにより、自分の努力だけではどうにもならないリスクに対する備えとして年金制度の利点を理解させる。

★ **ねらい**
○ 貯蓄にはない公的年金のメリットの1つとして、「長生きに備えることができる」という点を理解させる。

★ **解説**
○ 実際には、自分が何才まで生きるかはわからない。現代は、100才まで生きるのも珍しくない時代。もしかしたら、長生きして、老後の生活費が多かかってしまうかもしれない。
○ 公的年金なら、亡くなるまで受け取ることができる（終身で保障されている）ため、こうした“長生きのリスク”に対応することができる。

★ **ねらい**
○ 貯蓄にはない公的年金のもう1つのメリットとして、「インフレなどに対応できる」という点があることを理解させる。

★ **解説**
○ 下段の「昔の物の値段を考えてみよう！」にあるとおり、50年前に比べて物価（物の値段）は上がっている。若い頃に貯蓄したとしても、年をとった時に物価が上がっていれば、そのお金の価値が「目減り」してしまう可能性もある。
○ 公的年金なら、こうした「物価上昇（インフレ）のリスク」にも対応できる。具体的には、物価が上昇すれば、それに応じて年金額も増額する仕組み（物価スライド）となっている※1。実際、1970年代の石油ショックの際も、物価スライドにより、実質的な年金の価値が保たれている※2。

※1 2004年以降、少子高齢化に対応して、現役世代の負担能力に見合うよう、年金額が自動的に調整される仕組みが導入されており、物価や賃金の伸びと比べ、年金額の伸びは抑えられる仕組みとなっている。

※2 物価変動や物価スライド、年金の実質価値などの説明は、生徒の理解度に応じて、適宜立ち入らないこともあり得る。

高校生として必ずおさえておきたい“公的年金のメリット”

● 年金と貯蓄を比べてみましょう！

私たちは自分がどれくらい長生きするかわかりません。また、50年後の生活水準を予測することもできません。老後に備えて貯金をすることは大事なことです。長い人生には、自分1人では対応できないこともあります。公的年金があるのは、こうしたリスクへ社会全体で備える必要があるからです。

老後に備えて貯蓄しても…

人は、何歳まで生きるかは予測できない。
(どれだけ貯蓄をすればよいかわからない)

50年後の物価や賃金の変動は予測できない。
(貯蓄しても、将来目減りするかもしれない)

いつ、障害を負ったり、小さな子どもがいる時に
配偶者を亡くす(=所得を失う)かわからない。

公的年金なら…

終身(亡くなるまで)で受給できる

実質的な価値を保障された年金を受給できる

障害年金・遺族年金を受給できる

昔の物の値段を考えてみよう！

	うどん1杯	カレー1皿	食パン1kg	コーヒー1杯
1965年	54円	105円	95円	72円
↓				
2010年	595円	742円	438円	411円

5

障害年金 遺族年金

★ **ねらい**
○ 公的年金制度に老齢年金以外の機能があることを気づかせる。

★ **解説**

○ 障害年金
年金に加入中の病気やけが等が原因で、障害を有することになった場合に支給される。

○ 遺族年金
年金受給者や被保険者(加入者)が死亡した場合、その人に生計を維持されていた遺族(※)に支給される。

※ 遺族年金を受給できる遺族は、たとえば遺族基礎年金の場合、死亡した人に生計を維持されていた18歳未満(18歳の誕生日の属する年度末まで)の子、または18歳未満(同)の子のいる妻である。
遺族厚生年金の場合、死亡した人に生計を維持されていた配偶者、子、父母、孫、祖父母で、18歳未満(18歳の誕生日の属する年度末まで)の子のいる妻や子は、遺族基礎年金もあわせて受けられる。